

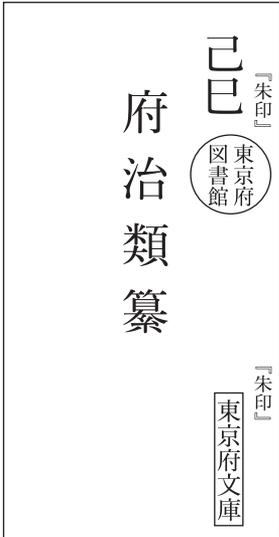
〈史料紹介〉

## 東京府文書「府治類纂 地輿」(その二)

横山 百合子

史料紹介「東京府文書「府治類纂 地輿」(その一) (『千葉経済大学論叢』三八号所収) に続き、本号では「府治類纂 地輿 第十七冊」(東京都公文書館所蔵 東京府文書、請求番号 634.A4.17)のうち、目次番号巻一二十五の記事を紹介する。凡例は、(その一)を参照されたい。

(表紙)



(二丁白紙)

『朱印』

東京府  
記録課  
編修記

『朱印』

東京府  
図書館

## 地輿

### 地輿ノ部

#### 目録

己巳年

『壹』 一、佃島渡船是迄船松町ノ渡候処、外国人居留地ニ相成候ニ付湊町地先え代地願

『貳』 一、同断ニ付船松町壹丁目新地吉右衛門地借治兵衛外五人、元陸軍所組屋敷上ケ地之内相渡勝手ニ筑立<sup>(一七)</sup>

普請可致旨申渡

『三』 一、千駄ヶ谷町家持平右衛門外壹人町内明地家作并受負地願ニ付申渡

『四』 一、下柳原同朋町繞新地裏之方両国上之上り場と唱候明地受納納地ニ可申渡旨調<sup>(一七)</sup>

『五』 一、朱引内諸邸其外家作取払候儀不相成旨達

『六』 一、朱引内諸侯邸宅辻番所従前之通番人差置可申旨等達

『七』 一、万石以下屋敷可為一ヶ所旨等御布告

『八』 一、武家其外身分違之者町地買求候節規則

- 〔九〕 一、御廊内外諸邸取計方之儀ニ付世話掛名主共え達
- 〔十〕 一、前々代官支配之内ニ而奉行附相成候町々之義ニ付改正方伺
- 〔十一〕 一、同断ニ付弁事へ建白
- 〔十二〕 一、受領地掛合取扱方伺
- 〔十三〕 一、深川平野町利助、四ッ谷市ヶ谷溜栞定浚附上納地改テ拝借之儀願
- 〔十四〕 一、廻船問屋五十四人惣代本八丁堀五丁目平四郎地借源蔵外四人、川蒸氣船乗合人并水主溜等場所拝借願
- 〔十五〕 一、浅草三好町地先植物場へ家作取建候二付、会計官合懸合
- 〔十六〕 一、南小田原町一二丁目外国人居留地ニ相成候二付、地代店賃増方願其外書類
- 〔十七〕 一、神田佐久間町壺丁目河岸地冥加上納之願ニ付調
- 〔十八〕 一、町屋敷讓渡之義ニ付町触并沽券状書式其外書類
- 〔十九〕 一、樽俊之助外三人受領地被召上更ニ拝借申付候事
- 〔二十〕 一、馬喰町四丁目家主惣代月行事善兵衛同町明地へ新規家作取建度旨願
- 〔二十一〕 一、旧幕用達町人共受領地等取計方伺
- 〔二十二〕 一、拝借邸宅応等級坪数之事
- 〔二十三〕 一、御用或免職之輩御貸渡之屋敷取計之事
- 〔二十四〕 一、小間割取計方伺
- 〔二十五〕 一、浅草田原町同東仲町統浅草寺境内畑屋敷と唱候場所取計之事
- 〔二十六〕 一、樽俊之助外三人拝借地代納方等調書
- 〔二十七〕 一、本所一ツ目鯨船鞆番所御廢ニ付取計方伺

『二十八』 一、深川万年橋向元海軍所附同心組屋敷外式ヶ所開市ニ相成候ニ付可立退処、難儀之趣ニ付当分住居差免地稅為相納候調

『二十九』 一、管下郷邨ヲ除之外戸數會計官ノ問合

『三十』 一、府内助成地其外租稅之義ニ付民部省ノ達

『三十一』 一、元町奉行内与力と唱候用人受領地之儀ニ付調

『三十二』 一、内神田浜町筑地辺郭内ニ准旨觸置候処、此度神田橋より昌平橋通ヲ境東之方郭外と可心得并武士地住居之町人取扱之儀ニ付町触

『三十三』 一、武士地町地とも地稅取立方之儀ニ付伺

『三十四』 一、邸宅拝借之儀ニ付御達

『三十五』 一、諸邸上地跡乞食体之者露宿或ハ行倒等有之候ニ付建白

『三十六』 一、拝借地之儀ニ付調

『三十七』 一、町屋敷拝借之儀ニ付調

『三十八』 一、武家地え住居いたし居候町方人別之もの地稅納方其外伺

『三十九』 一、旧幕臣ヲ始総而町人ニ至迄町地之内受領地或借地預り地等之分一同上地被仰付候儀ニ付、組々中添年寄え達

『四十』 一、万石以上以下共御規則之外屋敷拝借地代之事

『四十一』 一、抱屋敷ヲ百姓地ニ戻候節閉家作有之向取計之事

『四十二』 一、地方ニ關係之廉所置之儀布告ニ付道路復繕之義土木司ノ問合

『四十三』 一、以來華士族共屋敷地は勿論地方關係之儀は直達可致旨御達

- 『四十四』 一、邸宅総而引渡之儀民部省ノ達
- 『四十五』 一、市ヶ谷田町四丁目五人組持地借政次郎同町火除明地ニ新規町家取建候願ニ付調
- 『四十六』 一、深川西平野町家持武右衛門町内潰地買下之願ニ付調
- 『四十七』 一、永代橋新大橋大川橋東西助成地葭簀張之処定家作出來ニ付、人別調其外同ニ付調
- 『四十八』 一、町々河岸地以來受領地等無差別沽券地先同様所置之儀布告并調
- 『四十九』 一、本石町三丁目長崎屋源右衛門長崎県用達申付候ニ付、上地之分從前之通被仰付候様掛合
- 『五十』 一、淺草新旅籠町家主惣代新八元書替所上地受負いたし度段願
- 『五十一』 一、市ヶ谷片町家持京四郎町内除地買下ケ願ニ付調
- 『五十二』 一、橘町壺丁目喜三郎方同居又四郎弥太郎後見差免、元受領地ハ更ニ弥太郎ニえ拜借申付候事
- 『五十三』 一、神田鍋町北横町磯吉地借文藏神田佐柄木町統金田貞之助上地買下新開町家取建方願ニ付調
- 『五十四』 一、神田佐賀町藤吉店支配人同町五郎兵衛地借松五郎上地買下願ニ付調
- 『五十五』 一、上杉從四位家來ル町屋敷へ家作差置町人ニえ貸置候儀ニ付伺
- 『五十六』 一、尾張町貳丁目利兵衛地借次郎吉英学教授ニ付地所拜借願ニ付調
- 『五十七』 一、四ッ谷永住町之内太宗寺門前品川県へ引渡候届
- 『五十八』 一、神田元柳原町年寄嘉兵衛自身番屋跡地買下ケ願
- 『五十九』 一、高輪南町北町海岸地葭簀張年中差免候事
- 『六十』 一、麻布六本木家主与市外壺人、町内統岡本玄治上ケ地外一人上地へ新規町家取建方願
- 『六十一』 一、松村町壺丁目河岸地之内在來自身番ヲ町用取扱所ニ用度願
- 『六十二』 一、武家屋敷并市中竈数等之儀ニ付兵部省へ答

『六十三』 一、昌平橋昌平坂改称之義ニ付掛合往復

『六十四』 一、盲人共年寄之支配受不申様致し度趣願之事

『六十五』 一、麴町平川町統上地之場所町入用之儀ニ付申立候事

『六十六』 一、元葉園奉行預り地上地之場所冥加上納等之儀ニ付調

『六十七』 一、元養生所附町屋鋪ヶ所書

『六十八』 一、元船藏番同心共上地奥之方ニ家作有之ニ付、新開町屋ニ拝借相願候儀ニ付調

『六十九』 一、上地相成候町屋敷取計方伺

『七十』 一、芝浜松町四丁目吉藏同町地先河岸統明地拝借願ニ付調

『七十一』 一、木挽町四丁目庇地と唱候場所改沽券地ニ引直候儀ニ付申渡

『七十二』 一、市中明地野垂地河岸地等之税取立方ニ付伺

『七十三』 一、北本所番場町天台宗普賢寺并東江寺前川岸新規町屋取建候儀ニ付申渡

『七十四』 一、町人共所持地面ヲ妻娘等之名前ニいたし置候事不相成并是迄家主と唱候もの以来地面差配人と可唱

旨布告

『七十五』 一、深川安宅町受負上納金猶予願ニ付調

『七十六』 一、下谷和泉橋通新開町屋町年寄人数増之儀ニ付調

『七十七』 一、深川常盤町壺丁目式丁目地先小名木川通河岸地拝借願ニ付調

(七十八脱)

『七十九』 一、本材木町七丁目河岸自身番跡地拝借願ニ付申渡

『八十』 一、神田元柳原町家持善兵衛同町自身番屋跡地買下願ニ付調

『八十一』一、深川六間堀町年寄幸次町同町明地拝借地願ニ付申渡

『八十二』一、浅草諏訪町外五ヶ町川岸野垂地浅草寺別当即心院受負地願候処、右は差止右町々町人共え在来之通

二申付候事

『八十三』一、深川西平野町地先河岸地拝借願調之上申付候事

『八十四』一、両国上ノ上り場と唱候地下柳原同朋町平吉外壱人受負地願ニ付申付候事

『八十五』一、元大坂町新開町屋地代納方之儀願出候ニ付申渡

『八十六』一、両国西之方橋台左右明地屋台見世差出方願ニ付申渡

『八十七』一、元薬園地所ニ新開町屋其外取計度旨願ニ付調書類

『八十八』一、下柳原同朋町自身番跡拝借願ニ付調

『八十九』一、猿若町式丁目受負地諸入用相嵩引足兼候ニ付御免願ニ付調

『九十』一、佃島之内沽券地三千七百八坪之所改而被下候旨申渡

『九十一』一、本郷五丁目代地利三郎地借庄兵衛外三人、和泉橋元武家立退跡地面拝借願ニ付調

『九十二』一、元代官地之町々一円聞小間ヲ以町入用差出候ニ付、年貢諸役錢被差止候旨達

『九十三』一、銀座人所持地売券之儀大藏省へ問合

『九十四』一、深川扇橋町壱丁目式丁目河岸地拝借願ニ付申渡

『九十五』一、市ヶ谷八幡町裏行無之ニ付困込之儀願ニ付調

『九十六』一、両国橋東西橋番并水防受負人ノ東西広場助成地ニ相成冥加金上納之儀願ニ付調

『巻』

『明治二己正月十七日伺濟』

書面佃嶋之者共、是迄船松町へ渡船致し来候処、鉄砲洲居留地区内ニ相成候ニ付、東湊町元陸軍所組屋敷地先、間口五間、奥行六間之地所御渡相成候様仕度旨願出候ニ付、取調候処、事實致難洪候段無相違相聞候ニ付、屋敷改えも打合、場所見分仕候処、此程同役中村又藏取調、伺濟相成候始末、右組屋敷跡拜借被仰付候廻船瀬取船持共おるても差支無之趣ニ付、元船見番所際ニ而別紙絵図面之場所拜借地ニ被仰付、船待小屋之儀も御聞届相成可然哉奉存候、此段相伺申候

己正月

『右船待小屋之儀は不被及御沙汰旨被仰渡候』

乍恐以書付奉願上候

一、佃島月行事清兵衛、源五郎奉申上候、佃島より船松町へ渡船上り場、此度居留地ニ相成被召上、替地之儀は、東京府御裁判所へ相願可申旨被仰渡候ニ付、稻荷橋御渡戸場近辺は船込ニ而、肴商人共大勢往返仕候付、混雑之砌間違等も致出来候而は奉恐入候付、靈岸嶋東湊町式町目元船手御番所之際江、幅五間奥行河岸有之地所被下置候様奉願上候、左候ハ、右之内へ番屋取建、往返之者風雨之節致船待候場所ニ仕度奉存候間、別紙絵図面朱書之通奉願上度、何卒出格之以御憐愍、此段偏一同奉願上候、以上

明治元辰年十一月廿四日

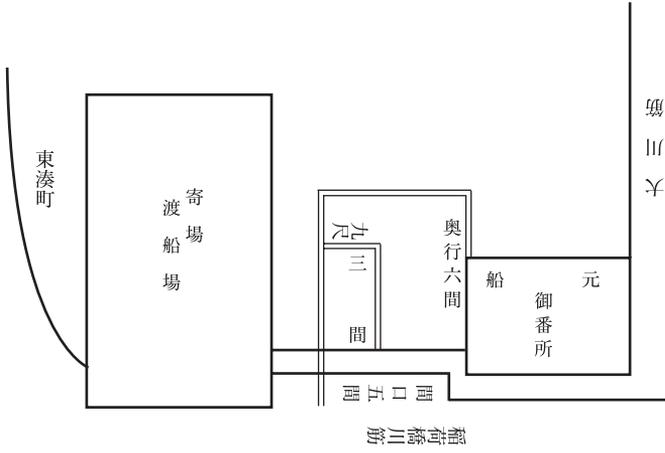
佃島月行事

願人 清兵衛印

同 源五郎印

東京府御裁判所

(は朱線)



東京府文書「府治類纂 地輿」(その二) 横山

『巳正月十八日廻濟』

書面佃島之者共、寄場御役所上り場際、渡船致し度願之趣取調候処、船路遠く風雨之節別而難儀いたし候段、無余儀筋ニ相聞候間、寄場懸調役え別紙問合之上、差支も無之候ハ、御聞届相成可然哉奉存候、問合書案相添、此段相伺申候

巳正月

野口 鎌五郎殿

谷村 官太郎

佃島月行事平左衛門外壱人儀、別紙之通願出無余儀筋ニも相聞候間、其御向御差支之儀も無之候ハ、御聞届可相成旨判事衆被仰渡候、依之願書写相添、此段及御問合候

巳正月

御書面佃島月行事平左衛門外壱人願出候趣、当局えも申立、差支無之候得共、御役所裏通行いたし候而は、御締之儀も有之、旁表門前通行候様いたし度、依之被遣候別紙留置、此段及御挨拶候

巳正月

寄場 方

乍恐以書付奉願上候

一、佃島月行事平左衛門、喜八奉申上候、此度渡船上り場船松町之方御用地ニ被召上、換地之儀は、東湊町元船御番所際ニ奉願上候付<sup>(マ)</sup>ニ付而ハ、船路遠く相成、大船掛り居候間を往返仕、朝夕は別而看商人共前後を争ひ大勢乗込混雜仕、殊ニ風雨之節は船自由ニ相成兼、自然怪我等も出来可申哉も難計、殊ニ三三月頃ニ相成り候得は、時々

難風も有之候間、万一人命にも拘り可申哉と深心痛仕候折柄、去ル二日急風之節一同難洪仕、船自由二相成不申候間、乍恐無余儀寄場御役所御上り場際え相付ケ、漸渡船仕候程之儀にも御座候間、何卒以御慈悲寄場御役所御上り場際え渡船場奉願上度、就而は佃島々御役所裏通り通行仕度奉存候間、出格之以御憐愍願之通被仰付被下置候得は、冥加至極、一同難有仕合奉存候、依之此段偏ニ奉願上候、以上

明治二巳年正月廿四日

佃島月行事

願人 平左衛門印

同 喜 八印

名主 幸右衛門印

東京府御裁判所

申渡

佃島月行事 平左衛門

喜 八

名主 幸右衛門

船松町二有之候佃島渡船上り場之儀、先般御用地相成候付、船松町壱丁目新地と換地相濟候ニ就而は、船路遠く風雨之節等別而及難儀候ニ付、揚場之儀寄場揚り場際江取付補理、渡船繫置度、右は役所南之方境入堀え橋相懸ケ、木戸矢米等仕付申度旨相願候付、相糺候処、申立候趣も無余儀次第二相聞、同役所おゐても差支之儀無之候付、願之通り申付候間、裏門前之方通行之儀は不相成、表門前之方ニ限り致通行、木戸矢米手堅ク仕付、明六時々暮六

時迄明ヶ置、其余は急度不切、都而不取締之儀無之様可致

但、揚り場所之儀は寄場を受取、且委細之儀は、同役所え相伺差図可受

巳二月廿八日

『式』

廻船瀬取解下

船持惣代

船松町壹町目新地吉右衛門地借

治兵衛

外五人

其方共儀、去辰年十二月中拜借被仰付候東湊町統元陸軍所組屋敷上ヶ地地所、今般坪数相改候通、行政官附高橋金助住居地相除、千七百六拾坪余地所相渡候間、勝手次第地形築立等取掛可申、尤人足寄場揚り場引去方之義、其方共一手入用を以普請可致旨申立候趣承置候間、寄場掛え伺之上取掛、出来次第其段可申出、且取締方等之義は、旧臘申渡置候通可相心得

巳二月廿二日

『辰十二月廿七日申渡』

廻船瀬取解下

船持惣代

船松町壹町目吉右衛門地借

治兵衛  
外五人

其方共居町之儀、今般外国人居留地区内相成候ニ付而は、河岸物揚場棧橋取払相成候処、渡世柄之儀ニ而品々差支有之故ヲ以、東湊町統元陸軍所組屋敷上ケ地拜借上納地ニいたし度旨願出候ニ付、相糺候処、其方共渡世之儀は、諸荷物大数取扱候儀ニ而、申立候趣無相違相聞候ニ付、願之通拜借上納地ニ申付、尤右地所之内御用地も有之候ニ付、坪数之義は猶相糺候上可渡遣候間、兼而町触之通相心得、右拜借地所は勿論、御法度筋等堅相守、火之元厳重ニ申付、都而不取締之義無之様精々心付、町入用其外町並之通取賄、地代之儀は、一坪ニ付壹ヶ月銀五分宛之割合ヲ以、年々七月朔日、十二月十日、右定日無相違先納可致、尤北之方入堀堀広ケ、浚方、地所平均方等、多分入費も相掛候趣ニ付、出格之訳を以、来巳年壹ヶ年地代上納差許遣候間、翌午年分より相納可申

船松町名主

松之助

右之通申渡間、支配町々之通相心得、都而不取締之儀無之様可心付

但町銘之儀は船松町壺町目新地と可唱

右町役人

右之通申渡間、其旨可存

辰十二月

『三』

『己巳』二月廿四日』

申渡

千駄ヶ谷町

家持 平右衛門

同 伝 八

同町

名主 勘四郎

其方共儀、町内并地先上地之場所家作并開発受負地ニ致し度旨願出候間、相糺候処、差障之筋も無之間、願之通申付、尤家作之儀は、猶場所見分之上可申付間、其旨可存

但地税之儀は、換地相済候上、地位ニ寄相当之上納可致候、右地所内え異変等有之候ハ、早々可訴出候

右申渡趣、証文申付ル

右 町役人

組合名主

右之通申渡間、其旨可存

巳二月

『四』

『己巳正月廿四日』

下柳原同朋町統新地裏之方両国上之揚り場と唱候明地、下柳原同朋町家主平六外壱人、願之通去辰十一月八日受負上納地被仰渡相済候処、地形築立、川縁堰板、石垣等出来仕候段、別紙之通申出候二付、往来地所家作地坪数等、本所方申談立合見分仕候上、勝手次第家作取建不苦、且町銘之儀は、伺之通新柳町と相唱候様可申渡候哉、此段相伺申候

『五』

『巳二月十九日御布告』

東京中、東ハ本所柳橋川筋ヲ限り、西ハ麻布・赤坂・四ッ谷・市ヶ谷・牛込ヲ限り、南ハ品川県境ヨリ高輪町裏通り・白金台町二丁目・麻布本村町通り・青山ヲ限り、北ハ小石川伝通院・池ノ端・上野・浅草寺後ロカ橋場町ヲ限り、右場所別紙絵図面朱引之内、諸邸其外共家作取払候儀、不相成候事

但先般郭外屋敷地ハ被召上、家作之儀ハ出格之筋ヲ以被下候旨、徳川家来へ相達候ニ付テハ、家作取払候向ハ、一応東京府へ届出ノ上可取払事

右朱引外ノ明キ地明キ屋敷等追々開墾相成候間、是迄朱引外住居致シ居候輩、可成丈ケ朱引内へ転居可致事

但右ニ付、屋敷拝借等致度向は、場所見立、巨細書取ヲ以東京府へ可願出事

『六』

『巳三月廿七日御布告』

東京中兼而御布令相成居候朱引内諸侯邸辻番所之義、一手持或は兩家以上組合持之分トモ、従前之通番人差置可申候、尤人員減省之儀ハ不苦候事

但中下太夫以下之輩諸侯ト組合持之辻番、昨年来取払候向モ有之ニ付、在来之分最寄二箇所ヲ一箇所ニ致シ、組合申合セ番人差置可申候、朱引外辻番ハ都而取払不苦候、尤万石以下之者計り組合候分ハ、朱引内タリ共勝手ニ取払可申事

東京中兼而御布令相成居候内、諸侯邸辻番之儀、一手持或は兩家以上組合持之分とも、従前之通番人差置可申候、尤人数減有之義は不苦候事

但中下太夫以下之輩諸侯ト組合持之辻番、昨年来取払候向も有之候ニ付、最寄ニヶ所も一ヶ所ニいたし、組合申

合番人差出可申候、朱引外辻番は都而取払不苦候、尤万石以下之者計組合候分ハ、朱引内たりとも取払可申事

巳三月

行政官

『七』

一、御布告之通、万石以下屋敷可為一ヶ所事

但下屋敷土地致シ候而差支、尚又拝借願濟ニ相成候モノハ、地稅可差出事

但町屋敷受領之モノハ、武士地へ引替相願可申、尤引替候而ハ難渋之向ハ其儘被下候積ニ付、其頭支配ニテ取調可申立、何モ地稅之儀ハ追而可相違事

一、内神田・浜町・築地辺、郭内ニ準シ候旨、去辰九月中相觸置候處、此度神田橋門通ヨリ昌平橋通ヲ境トイタシ、

東之方神田・浜町・築地辺、以後郭外ト可相心得事

一、郭外ニテ町地ニ可相成武士地は、屋敷改ニテ取調可申立事

但町地ニ相成候上ハ、都而町並之通、尤武士地へ住居可相濟身分之者モ住居相免シ、地稅町入用トモ為差出可申事

一、拝領町屋敷所持之者ハ、地稅可差出事

一、宮堂上家来・諸藩士等、文武師範致シ候歟、又ハ無摠筋ニテ其主家邸内ニ罷在候テハ差支候分ハ、武士地拝借聞濟、地稅為差出可申事

但身分之義ハ、主人又ハ其頭支配ヨリ屋敷改役所へ添簡ヲ以申立候ハ、糾之上地所貸渡シ可申事

一、是迄武士地へ住居致シ居候町人別之者、又ハ町医師・御用達町人・角力・檢校・勾当等は、縵而往来町人別之部ニ入、其所年寄共右地所拝借証文へ加印致シ差出候ハ、当分差置、地稅為差出可申事

右之通ニ有之候間、相心得可申事

『七』は、明治二年『法令全書』第四百六十、五月十七日（布）（行政官）である。

『八』

『己巳二月』

先般御布告有之候武家其外身分違之者町地面買求候節、并是迄所持罷在候分取計方之儀、別紙之通世話掛名主共同出候二付、取調候処、右類二而町分之地面所持之分而已屋敷改帳載致し来候義二而、町人共名前之分ハ、讓受渡之節共屋敷改え願届等不致仕来ニ有之、然ル上ハ、身分違之者町分之地面は、向後都而町人名前之可為券状旨御布告有之候二付、町分之地面は一般ニ町人名前相成候二付、以後屋鋪改帳載ニ不及、他国之もの買求候節之振合ニ准し、御支配町人別之町人ヲ沽券代ニ為相定売買いたし不苦、且帳載所持罷在候分も、右沽券代為相定候振合ニ早々取直し、其余は伺之通相心得可申旨、名主共え可申渡候哉、此段屋敷改えも打合相伺申候

己二月

当月十四日被仰出候御触書之内

町分ケ之地面は、向後都而町人名前之可為券状、然ル上は、身分違之面々ニ而買取候（御旨也）必名代差出、町内之諸役無差支為相勤可申事

此義、是迄他国在方之もの等町屋敷買求候節は、店支配人無之分は、家守之外御府内人別人之者を沽券代と申ものニ相立、右地所之進退致し候事ニ有之、尤売買讓替等之節は、沽券代ニ而は不相成事ニ御座候

一、御武家方并寺院・御用達町人等、身分違之もの買求候節は、屋敷御改え売主・買主・地所之町役人一同罷出、願書絵図面ヲ以御帳載御願申上、御聞済之上売買いたし候事ニ御座候、尤家守附置、町役筋無差支相勤候義にて、別段沽券代と申者は相付不申事ニ候

右之通御座候処、前文御触面之趣ニ而は、御武家方其外身分違之者買求候節も、別段御願不申上、前書他方(因之)在方もの買求候節之振合ニ准し、御支配人別之町人を沽券代ニ為相立候而売買取引致し、不苦事ニ可有御座哉、此段奉伺候、以上

但、是迄身分違之もの御帳載之上御所持罷在候分も、本文之振合ニ取計可申哉、是又奉伺候

巳正月

世話掛 名 主 共

『九』

『巳巳二月十三日』

組々世話掛

名 主 共

御郭内は勿論、御郭外東ハ本所扇橋川筋ヲ限り、西は麻布・赤坂・四谷・市谷・牛込を限り、南は品川県境より高輪町裏通り・白金台町式丁目・麻布本村町通り・青山を限り、北は小石川伝通院・池之端・上野・浅草寺後々橋場町を限り、右場所別紙絵図面朱引之内は、諸藩邸共外家作等取払田園と致し候義、不相成候事

但先般郭外屋敷地は被召上、家作之義は出格之思召を以被下候旨、徳川家来え相達候得共、家作不取払候而は難渋之向も可有之候間、其段は急々可伺出候

一、右朱引之外は、諸屋敷又は明地等を開墾致シ、土地相応之物を仕立可相成候間、是迄朱引外住居相成居候朝臣其外、成丈ケ朱引内え転居又は拜借等、場所見立可願出事

但巨細之義は、書取を以可相伺候

右之趣、御府武家・社寺・町方えも、不洩様可触知もの也

巳二月

『十』

『巳巳』三月十二日小印濟』

前々より、代官支配之内ニ而町奉行支配附ニ相成候町々を町並屋敷と唱、年貢諸役納方等之儀は代官之差図を受、双方之支配受候姿ニ相成、不都合之儀も御座候間、今般市中取締筋御改正ニ付而は、朱引内町並屋敷之分は、郡政局之手を離市政局一手之支配ニ被仰付、年貢諸役等都而市政局江為相納、開墾場、絵図朱引外町並屋敷之分は、市政局之手を離れ郡政局一手之支配ニ相成候ハ、市在之境界も相立、差跨候儀も無之可然哉ニ奉存候、依之郡政懸出納方えも打合、此段相伺申候

但吉原町之儀は、市政局支配たるへき事

未三月

『参事衆附札』

朱引内町並屋敷之儀は、古町屋同様年貢上納ニ不及、朱引外町並屋敷は、是迄之通り

但朱引外ハ郡政支配之事

『十一』

『巳巳』三月十九日掛合』

東京府管轄之内、従来之仕来ニ而市在之區別混雜いたし居候場所儘有之候処、今般別紙絵図朱引之通り、野外は全在方之部分ニ入年貢地之積、且野内ニ相成候町々ニ而年貢地之仕癖ニ扱来候分は、一併沽券地之姿ニ引直シ、市籍え組入、市在之境界発輝と相立候儀ニ付、自然御年貢・諸夫錢・人馬助郷等之廉、聊ツ、之異同出来可申と存候間、右之段会計官え御達相成候様仕度、依之、別紙絵図相添、此段申上候也

三月

東京府判事

弁事御中

〔十二〕

〔己巳四月十九日伺濟〕

今般受領地掛被設候二付、取扱方之義左二相伺申候

〔附札 卷〕 一、朝臣被仰付候者、元受領町屋鋪勤仕不勤二不拘、其儘被下置候哉

〔式〕 一、徳川家小役人大繩町屋敷受領致し候者、朝臣相成御役被仰付候者、右等級之階級二寄、武士地と御引替相成候義ニも可有御座候哉、右様之類は如何相心得可申候哉

〔三〕 一、同家来駿府移住、其余帰田上地致し候者之内、町会所金借受居候者多分有之候間、取調之上、右之分は一般二町会所掛え引渡、同所ニおゐて取計方相伺候積申達候様可仕候哉

〔四〕 一、同家医師・画師・能役者・碁将基之者等之類、町屋敷拜領相居候もの朝臣被仰付、其役柄之階級二寄、屋敷地と御引替被下置候哉、又は其儘受領可被仰付候哉

〔五〕 一、前々より町屋鋪式ヶ所頂戴仕居候者は、壹ヶ所返上可被仰付候哉

〔六〕 一、寺院等二而、徳川家より町屋敷借用いたし来候類は、御沙汰難被及方取計可申候哉

〔七〕 一、朝臣被仰付候者、新規二町屋鋪拜借願出候ものは、御沙汰難被及方二取計可申候哉

右は差掛候廉々奉伺候、猶相洩候義は、追々相伺候様可仕候、以上

巳二月

受領地掛

附札

一 伺之通、就而は相当之地税為差出可然、税法は可伺出候事

同

二 大繩町屋敷受領致し居候者之内、帰農帰商或は駿洲え参る者も可有之、就而は当人共割前丈ケ取上ケ、其余は残人数え割渡被下、相当之地税為差出可然歟

同

三 伺之通ニ而可然

同

四 其儘被下置、相当地税為差出候方可然歟

同

五 伺之通ニて可然歟

同

六 伺之通ニて可然

同

七 伺之通ニ而可然

『十三』

『巳巳』三月廿日伺濟』

深川平野町利助儀、四ッ谷市ヶ谷溜榊定浚附上納地、別紙絵図面朱引之通、六拾八坪壹ヶ月銀廿壹匁八分宛地代上納致来借地罷在候ニ付、今般改拜借願之趣取調候処、右ハ天保九戌年中令借地罷在、且地代之義ハ坪割銀三分二厘余ニ相当り、不相当之義も相聞不申候間、願之通改拜借被仰付候ハ、其段申渡、受証文取置候様可仕候、此段相伺申候

巳三月

乍恐以書付御訴訟奉申上候

深川平野町拝借地々守利助奉申上候、私儀、四ッ谷市ヶ谷溜枿定浚附上納地旧幕府より拝借仕罷在、西角表田舎間四間、裏巾同断、裏行拾七間、此坪六拾八坪、壹ヶ月銀廿壹匁八分ツ、毎月二日上納拝借仕罷在申候二付、前々之通地代御上納仕候間、何卒格別之以御慈悲、是迄之通私え改永之拝借被仰付被下置度、別紙絵図面相添此段奉願上候、以上

明治元辰年十二月

深川平野町溜枿定浚附

上納地拝借地守

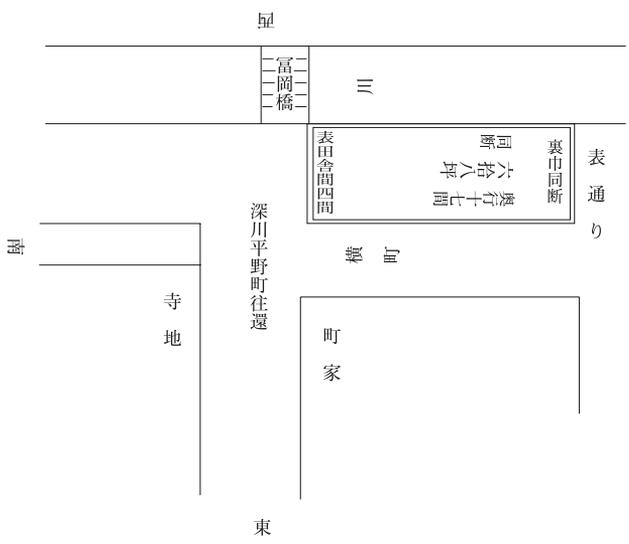
願人 利助印

五人組 長兵衛印

東京府

御裁判所様

(は朱線)



『十四』

『己巳』三月廻済』

廻船問屋五拾四人惣代本八町堀五町目平四郎地借源兵衛外四人儀、川蒸気船乗合人并水主溜・石炭置場とも、船松町寺町目新地西之方河岸附地所拝借補理度旨、東京運上所え願出、同方より達有之伺済、寄場方え談判之上、別紙

絵図面掛紙朱引之場所八間四方返地差支無之旨、談判濟二付、右間數源兵衛其外之御貸渡相成候段被仰渡候二付、地代之儀は廻船瀬取舢下船持とも拝借地々代之振合を以、壹坪二付壹ヶ月銀五分宛之積、其余別紙之通可被仰渡候哉二奉存候、伺之通被仰渡候ハ、屋敷改え打合、寄場方より地所受取相渡候様可仕候、此段相伺申候

巳三月

申渡

廻船問屋五拾四人惣代

深川佐賀町太兵衛店

十右衛門

外 四人

其方共儀、川蒸氣船乗合人并水主溜・石炭置場として、船松町壹町目新地河岸附地所願之通拝借地申付候間、都而不取締之儀無之様精々心付、地代之儀当巳年分ハ不及相納ルニ候

七番組添年寄

森 幸右衛門

右町役人

右之通申渡間、其旨可存

巳四月



會計官判事御中

東京府判事

浅草三好町地先植物場之儀、旧幕府勘定奉行持之節、去卯九月中弘地入札町触取計方之儀掛合有之、取調及挨拶候儘二相成居候処、右地所御用助成地二相成候段、当九月中右町名主え御申渡有之候旨、其頃訴出候、然所、京中土地是迄御薬園其外植物地等惣而東京府え相任、但租税之義、是迄之通年々會計官え可相納旨御書付之趣も有之、然二、此程右場所え家作等取建候段名主共申出候、右は別段御伺済も有之候ハ、承知いたし度、且住居人等有付候上は、人別調其外町規取扱方等不申渡候而は差支候間、委細早々御挨拶有之候様致し度、此段御懸合およひ候

辰十一月

以書付奉伺候

一、浅草三好町地先植物地之儀は、旧幕勘定所附二而御座候処、先般民政裁判所附二相成、非常異変之儀は、前々之通り右町二而心得居候様二との儀二候処、当九月十七日、元伝奏屋鋪會計局より右三好町名主御呼出二候処、当今名主無之候二付、組合之内、茅町弥兵衛可罷出候処、病氣二付代之もの差出候処、右植物地御用助成地二相成、小石川大塚上町家持北溟え受負申付候旨被仰渡候二付、翌十八日、三好町月行事え其段御訴申上置候儀二有之、然所、此程右場所え家作等相建候様子二付、住居人等有付候上は、右場所人別調、其外町規取扱方等如何可相心得哉、此段奉伺候、以上

明治元辰年十一月

浅草田原町

名主

吾印

同所元鳥越町

同

文次郎印

同所諏訪町

同

吉郎

東京府判事御中

會計官判事

東京土地、是迄御葉園其外植物地等都而其御方え御任セ相成、租税之儀は、御定高年々會計官え可相成と之御沙汰に付、是迄当局進退植物御用地并同断助成地、此度見立地之分共、別帳ニ取調御廻申候、見立地之内御掛合中之分も有之候得共、最早右御沙汰之上ハ、何れ共其御方御進退地之儀ニ付、願人等有之候分ハ、願書共不殘御廻申候、尤箇所々御收納筋御取調之儀は、当局懸り之者為立会可申儀と存候、此段及御打合候

辰十二月

植物御用地租税取調帳之内書抜

一、浅草三好町地先明ヶ地

此坪五百坪余

此分此度仕法換ニ而、植物御用助成請負地ニ相成候事

壹ヶ年冥加上納

請負人大塚上町

金貳百七十兩

家持 北溟

但七月十二月兩度ニ上納之積

右上納高之内、当辰八月より十二月迄之分之内

金六拾七兩貳分

上納済

會計官判事御中

東京府判事

東京土地、御葉園其外植物地等都而當府え御任セ相成、租税之儀は、御定高年々其御官え御收納可相成と之御沙汰

東京府文書「府治類纂 地輿」(その二) 横山

二付、是迄其御官御進退植物御用地并同断助成地、此度見立地之分共、別帳ニ御取調御廻被成、致落手候、見立地之内御掛合中之分も有之候得共、最早右御沙汰之上ハ、何れ共当府進退地之儀ニ付、願人等有之候而ハ願書共不殘御廻相成、尤ヶ所々御收納筋取調之儀ハ、其御官掛之ものを為立合可申旨御掛合之趣致承知候、右御菜園其外植物地之儀ニ付而ハ、見込之次第も有之候間、尚委細ニ取調、追而可及御談候得共、是又植物御用地之儀ハ、其御官より何れ之振ニ被成置候哉、手續大略、乍御面例、以書取一応被御申越候様いたし度存候、先此段及御答候也

辰十二月

御書面之趣致承知候、是迄御用地之儀ハ、地味見計漆櫨等植付置、何れも直製之儀旧幕より之仕来ニ候得共、右ニ而ハ御收納筋不都合之儀も有之候間、夫々仕法替致し、直製之儀は相止、受負人等申付租税にて取立、地味不  
宜場所ハ夫々受負地等ニ取計候積、見込居候儀ニ有之候、此段及御挨拶候

正月

會計官

『己巳四月廻濟』

浅草三好町地先旧幕勘定所持植物地、會計官御持ニ相成、去辰年九月中小石川大塚上町家持北溟へ受負上納町屋ニ被仰付候ニ付、町規取計向之儀、元三番組世話掛名主共伺出候間、伺之上會計官へ御問合相成候處、同局進退植物地助成地等先般御引渡相成候ニ付、町規取計等之儀、別紙之通り可被仰渡候哉、此段奉伺候

巳四月

申渡

小石川大塚上町 家持 北 溟

浅草三好町 月行事共

浅草三好町地先会計官植物御用地之儀、去辰年九月中、同官於て北浜え助成受負上納町屋ニ申渡候二付而ハ、右場所地借店借之者共、身分之儀は町役人共致差配、諸触事・町入用等は都而町規仕来之通取扱、冥加金之儀ハ、同官え願濟之通り、一ヶ年金二百七拾兩致上納候儀と相心得、年々七月二日、十二月十日右定日当府え無相違致先納、都而不取締(儀脱之)之無之様可致

但町銘之儀は、浅草植木町と相唱可申候

四十壺番組中年寄

大久保 真十郎

右之通申渡候間、不取締之儀無之様精々心付候様可致

巳四月

先般御引渡相成候其御官附植物御用地之内、浅草三好町地先小石川大塚上町家持北浜受負上納町屋町規取扱向并町名唱換之儀、浅草植木町と相唱可申旨、右北浜并場所町役人共え申渡候間、為御心得、此段申入候也

四月

東京府判事

会計官判事御中

『十六』

『巳巳四月廻濟』

南小田原町老町目式町目家主惣代清次郎外老儀、先般右町外国人居留地圈内ニ相成候二付、追々繁盛之土地ニ相成候処、右以前は辺鄙之場所ニ而、家作等至而見苦敷、殊ニホテル近傍ニて外国人え対し失体二付、此上家根は瓦

葺ニ致し、時々修復等相加候ニ付而ハ、地主は諸人用多相掛り、是迄之地代店賃ニ而ハ引合不申致難洪候ニ付、直上ケ之儀願出候間、勘弁仕候処、別紙捕亡方下目付より取調申上候通、右町之儀は、隣町ニ見合候得共、下直之段は相違無之、乍去一時ニ引上ケ候而ハ、小前之者共致難洪人氣ニも拘り可申候間、以後新規ニ地所店等借受候者、又は商筋土地ニ相応ニ而致繁昌候者を始ニいたし、漸々隣町ニ見合直上致し候様被仰渡可然哉、奉存候、依之、私共今別紙之通申渡、証文取置可申哉、此段相伺申候

巳四月

南小田原町壹町目

家主惣代 清次郎

同町貳町目

同 宗助

其方共町内之儀、先般外国人居留地困込ニ相成候ニ付、家作を始、見苦儀無之様注意いたし候ニ付而ハ、諸人用も多分ニ相成候ニ付、地代店賃直上ケ之儀願出ルニ付、相糺候処、無相違相聞候間、以来過當之儀無之、且小前在来之者難洪不致様、商筋繁昌之者、新規地所店等借受候者を始ニいたし、隣町ニ見合漸々相当之直上ケニいたし候ても不苦候

上

捕亡方下目付頭取

捕亡方下目付

南小田原町壹町目貳町目家主共儀、外国人居留地区内相成候ニ付而ハ、臨時人用等相懸り、於地主も致難洪候ニ付、

隣町ニ見合地代店賃引上度旨願出候ニ付、不相当之儀は無之哉取調可申上旨被仰渡候間、密々承探候処、一体町々地代店賃之儀は、於旧幕府天保度調之上、寛政度ニ見合引下之儀申渡、自儘ニ引上候儀難相成候処、近来諸色騰貴之折柄ニ付、天保度ニ不拘、其場所々盛衰ニ随ひ、隣町ニ見合勝手次第高下可致旨、去辰三月中申渡有之、其後築地町々之内、外国人旅館最寄は追々繁花可相成人氣ニ付、左之通り  
去々卯年中

一、南飯田町地代

表坪 式匁 當時 三匁  
裏坪 一匁 一匁五分

一、上柳原町同斷

表坪 式匁五分 同 四匁  
裏坪 壹匁八分 式匁

一、南本郷町同斷

表坪 壹匁八分 同 三匁一分  
裏坪 壹匁三分 壹匁八分

右之通り、追々相對ニ而引上ケ候由

一、船松町壹町目地代

表坪 式匁八分六 壹匁七分迄  
裏坪 壹匁三分

一、本湊町同斷

表坪 三匁五分ノ貳匁壹分迄

裏坪 壹匁五分ノ壹匁まで

一、南八町堀壹町目ノ五丁目迄同断

表坪 貳匁八分ノ壹匁七分迄

裏坪 貳匁七分ノ壹匁五分迄

右之通二而、去々卯年頃より高下無之由

一、入船町

一、新栄町

一、新湊町

表坪 三匁五分ノ三匁まで

裏坪 壹匁六分ノ壹匁三分迄

右三ヶ町之儀は、新規町屋之儀は書面之地代拝借人ノ致上納、拝借人より貸付候節ハ、右高え割増貸付可申候間、区内地代弥以高下可相成由

去々卯年中

一、南小田原町壹町目地代

表坪 三匁三分ノ貳匁五分迄

裏坪 壹匁三分

同

一、同町貳町目同断

表坪 式匁八分ノ式匁五分迄

裏坪 壹匁ノ式分ノ七分迄

右之通ニ有之候処、前々は南八町堀鉄砲洲之方地位宜敷、旅館相立候以来は、却而右最寄賑敷繁昌之人氣ニ相成、去辰以来、前書之通相對ニ而引上候場所も有之候得共、絶而騒立候儀も無之、南小田原町之儀、隣町ニ見合地代引上ケ不相當ニは不相聞候へ共、同町之儀其日稼之者多く致住居候場所ニ付、新規地所貸付之分、又は借長屋普請修復いたし候分も、格別場所之盛ニ隨ひ、是迄往來候者共無謂地代店賃引上候而は、住居人共必定騒立可申哉ニ付、新規貸付并普請修復いたし候者、又は在來之ものニ而も商筋土地相成ニ盛候分は示談いたし、一般に引上不申様御沙汰相成、追々引上候得は混雜致間敷哉ニ相聞申候  
右承探候趣、書面之通御座候、此段申上候、以上

三月九日

捕亡方下目付頭取

捕亡方下目付

『但、町内願書写略之』

『十七』

『己巳四月廻濟』

書面嘉兵衛儀、神田佐久間町壹町目地先河岸地之儀は、元地之者共銘々冥加上納川岸地と唱、前々より炭薪板材木類置場ニいたし候処、七ヶ年以前大小砲車台製造場ニ相成候処、当節は明地相成居候間、先年之通置場ニいたし度旨申立、取調候処、右川岸地之儀は惣坪四百六十八坪有之、是迄壹坪ニ付銀五分宛旧幕之節相納候ニ付、同様之振合を以願之通被仰付候ハ、聊なから御益相成候儀ニ付、御採用相成、右之趣出納方へも可被仰渡候哉、此段相同申候

巳四月

『但願書写略之』

神田佐久間町老町目地先河岸地之内、大小砲車台御製造場御用中御小屋場地所

一、間口式拾六間  
河岸行拾八間

此坪数四百六十八坪

但、壹坪二付銀五分

此算加金一ヶ月

銀式百三拾四匁

為金三兩三分式朱壹匁五分

壹ヶ年

金四拾十六兩三分銀三匁

右之通御座候、以上

巳四月

神田佐久間町老町目

月行事 嘉兵衛

五人組 定吉

『十八』

『巳巳四月町触』

町屋敷讓渡之義は町規ニ於て不輕儀ニ候処、地所讓受候而も名前書替も不致、其儘ニ致し置候もの有之哉ニ相聞、

以之外之事二候、向後地所讓受候ハ、速ニ沽券状繼印致し、紛敷儀無之様可致候、尤後証之為割印致し可遣候間、沽券状繼書相濟候ハ、割印之儀願出候様可致候、若名前書替も不致等末<sup>箱取</sup>ニ致し置於及出入は、其始末ニ寄地面取上ケ可申候

一、前々々仕来ニ而、沽券状繼書致し候節、地所讓受候ものハ町内え弘金又は歩一金等差出候趣ニ候得共、名前書替之度々無益之人費相懸り候而は、自然沽券金高二も差響候ニ付、以来弘金、歩一金等差出候儀は一切不相成候間、決而受納致間敷候、若内々ニ而貫受ルニおゐては、送ルもの受ルものとも屹度可及沙汰候  
右之趣、町中不洩様可触示者也

巳四月

組々世話掛

中年寄共

町屋敷讓渡之節、沽券状え割印致し可遣旨布告致し候ニ付而は、以来沽券状繼書え印形致し候節、別紙雛形之通願書相認、印形取揃、地所讓受候ものハ割印之儀願出候様可致候、尤地所讓渡候もの并右え加印いたし候五人組、中年寄共、差添罷出候ニ不及候

右之趣組々え申通、支配限不洩様可申聞候

巳四月

『美濃紙二ツ折え可認事』

何町何町目何角何軒目

表何間何間

何町何町目

一、裏行同何間

讓渡人 家持 誰

裏巾同何間

讓受人 同人悴 誰

此坪何十坪

沽券金何程

右地所、是迄誰所持罷在候処、此度誰へ相讓、沽券狀繼書相濟候二付、御割印奉願候、以上

何ノ何年何月幾日

右

誰印

五人組惣代

誰印

中年寄

何之誰印

東京御府

何町何町目何角何軒目

表何間何間

何町何町目

一、裏行同何間

家持 誰

裏巾同何間

何町何町目

此坪何十坪

誰地借誰

沽券金何程

右地所、是迄誰所持罷在候処、此度誰方え買受、沽券状相改候二付、御割印奉願候、以上

何ノ何年何月幾日

右

五人組惣代

誰印

中年寄

誰印

右

誰印

家主

誰印

中年寄

誰印

東京御府

何ノ誰印

『己巳五月十七日町触』

東京府文書「府治類纂 地輿」(その二) 横山

町屋鋪讓渡又は売買之節、繼書割印其外之儀ニ付、先達而相触候處、右割印之儀は示來之分而已之處、今般町名相改候上は、在來沽券狀面之町銘并地面ヶ所等も相違致し、彼是紛敷候間、府内町屋敷是迄之沽券狀不殘相廢止、別紙雛形之通一ト通地面限り沽券狀相認、写共ニ夕通來ル六月中差出可申、右え見留印之上本紙は下ヶ戻可遣、且繼書之度毎も、右同様相心得願出可申、就而は、市中町屋敷之内東京府之印無之分、沽券狀ニは不相立候、其余は都而先達而相触候通相心得可申候事

別紙

『用紙 程村 壹枚  
美濃紙二ツ折壹枚』

町屋 鋪カ 沽券狀之事  
町並屋敷カ

何番組

何町何角

〔采布・線〕  
印

一、表 京間 何間  
一、裏巾 田舎間 何間

一、裏行 同 何間

此坪何百坪

年号月日

沽券金何程

何町家持

地主 誰

右之通券状相違無之者也

明治二巳年何月

東京府〔朱印・線〕印

町屋敷 敷 沽券状之事

町並屋敷

何番組

何町何角今何軒目

〔朱印・線〕印 一、表 京間敷 何間

一、裏巾 同 何間

一、裏行 同 何間

此坪何百坪

年号月日

沽券金何程

右之通券状相違無之者也

明治二巳年何月

東京府〔朱印〕印

〔朱印・線〕『売券継紙』

印 右家屋敷、此度代金何程ニ貴殿え永代売渡申候、為後日沽券状継紙致シ置候処、仍如件

年号月日

右家屋敷

売主 誰印

何町誰地借

親類惣代 誰印

右家屋敷

五人組 誰印

同 同

同 同

誰殿

前書之通承届候、以上

中年寄

何之誰 印

添年寄

何之誰 印

『讓人存生継書』

右家屋敷是迄我等所持之処、此度其許え相讓申候、為後日沽券状継紙いたし置候処、仍如件

右家屋敷

讓人 誰

何町誰地借

〔采印・線印〕

年号月日

誰殿  
前書之通承届候、以上

親類惣代 誰  
右家屋敷

五人組 誰

同 同

同 同

何ノ誰  
中年寄 何ノ誰  
添年寄 何ノ誰

〔采印・線〕

印

〔讓人病死後継書〕

右家屋敷所持主誰病死ニ付、此度貴殿讓受所持致し候段、相違無御座候、為後日沽券状継紙致し置候処、仍如件

何町誰地借

親類惣代 誰

右家屋敷

五人組 誰

同 同

同 同

誰 殿

中年寄 何ノ誰  
添年寄 何ノ誰

『己巳九月十五日町触』

今般市中沽券状改正ニ付而は、是迄六尺五寸間六尺間兩様ニ相成居、京間田舎間之断書不致候而は分り兼、不都合之儀も有之候間、以來六尺間ニ相改可申候  
右之趣町中不洩様可触知者也

巳九月

『十九』

『己巳四月廿五日』

元郡政局調役  
樽 俊 之 助  
元庶務方  
喜多村 又 四 郎  
館 市右衛門  
元屋敷改附属  
樽 屋 三右衛門

其方共儀、先般職務被免候処、数代町年寄并地割役相勤候ニ付、格別之誤を以、被召上候受領地更ニ拝借申付候間、

相当之地税上納可致、税法之儀は、追而可及沙汰

但以来名字帶刀難相成

『二十』

『廿四』四月廿九日小印濟』

馬喰町四町目家主惣代月行事善兵衛儀、同町明地え新規町屋取建受負致シ度段願出候二付、取調候処、別段不都合之儀も相見不申候付、願之通受負可申付候哉、依之被仰渡書案其外（案付）類相添、此段相伺申候

申渡

馬喰町四町目

家主惣代

月行事

善兵衛

其方儀、町内明地え新規町家取建、壹ヶ年金五拾三兩上納之積ニ而、受負致シ度段願出二付、相糺処、不相当之義も不相聞二付、右金高を以願之通受負申付間、不取締之儀等無之様可心付、尤上納金其外委細之儀は、常務方差凶可受

右町役人

右之通申渡間、其旨可存

五月二日

馬喰町四町目

馬喰町四町目  
家主惣代

月行事

一、式百四拾七坪三合余

善兵衛

右受負場所大切ニ相勤、往還持場之儀兼而被仰渡候通心得、町入用其外都而町並之通取賄、地代之儀最奇町々ニ見合、不相当之儀無之様貸付、御法度筋堅相守、家作屋根茅板葺等は不相成、何れも瓦葺ニ致し、火之元等嚴重ニ申付、厚取締致し相勤、全更地ニ付、普請中当月々七月迄三ヶ月上納御宥免被成下候間、八月より十二月迄五ヶ月分上納金は、月割を以、来ル八月先納致シ、来午正月より六月迄半年分ハ、当十二月十日相納、残り半年分は来午七月十日相納、右順を以兩度ニ先納可致旨被仰渡、奉畏候、仍如件

『二十一』

『廿四』四月

旧幕府用達町人共義、徳川家暇相成候ニ付、改而朝廷御用達相勤度旨願出、右は御一新之御主題を不弁、他日之弊害を生可申間、用達之名目不殘廢、身分之義は当府ニ而進退御処置相成、西京同様之御制度ニ相成候様会計官ノ御懸合之趣、右用達之者共は、苗字帯刀差免之外、録高・手当米・町屋鋪等受領罷在、御用達出願いたし候は、是迄之通受領向其儘拜領いたし度志願と相聞候間、会計官ニて廢申渡相濟候ハ、身分進退人別人之廉は戸籍掛、町屋敷之儀は屋鋪改町掛え取扱方可被仰付候哉、此段相伺申候

巳四月

判事衆加筆

書面旧政府用達町人共義、御一新以来は身格祿給相廢シ、平町人と可致義勿論ニ候得共、受領地迄速今取上ケ候

ハ、必苦情を生シ、又は当人共ニおるても事実難渋可致、就而は、右受領地所所持いたし居候ものハ、其儘与へ置、相当之地税為差出候方可然歟

『二十二』

『七』五月十一日』

今度諸官員え拜借之邸宅御修復、莫大費用ニテ御時節柄簡易之御趣意ニ相戻り候次第、向後拜借之建家坪数畳数、別紙之通御定相成候間、此段為心得相達候事

但自今勝手外宅え転居相願候向は、修復料不被下候事

四月

行政官

二三等官

建家坪数七拾坪ハ八拾坪迄

畳数八拾畳ハ百畳迄

長屋三軒

『奏任以上ニアツヘシ 但官ノ高下ニ寄潤色アルヘシ』

四五等官

同三拾坪ハ四拾坪迄

同四拾畳ハ五拾畳迄

同式軒

『判任以下ニアツヘシ 但同断』

六七等官

同式拾坪より式拾五坪迄

同式拾五畳ハ三拾畳迄

長屋住居之事

八九等官

同拾五坪より貳拾坪迄

同貳拾畳分貳拾三畳迄

長屋住居之事

右之通御定ニ相成候事

巳四月

東京朱引之外住居之義は難相成候得共、是迄従来住居之者、差向引払候而は可為難儀候間、追々朱引之内え転居可致事

但新規拜借之義は不相成候事

書面之通評議相濟候間、御達申候

巳五月

東京府上水屋鋪改

行政官触頭御中

『二十三』

『巳巳五月』

御用或は職務被免候輩、是迄御貸渡相成候屋敷其儘ニ致し出立候向も有之、不都合之事ニ候、向後出立之節、一々弁事え可届出候事

五月

弁事

『二十四』

「今般町々区別相立、格別小町之分は見切宜敷一区ニ致し、町銘相改候方弁利ニ付、小間高取調候処、右は其町毎間小間現在小間等品々入組罷在候間、町銘相改候上、此度惣坪取調、式拾坪壹間と見居、京間敷田舎間之内一定小間相改め候ハ、仕来異同之分相改り、小間高平等相成相当之儀と奉存候、此段御内意奉伺候、以上

巳三月

中年寄世話掛肝煎

村 松 為 谿

附札

「書面伺之通相心得、早々取調候様可致事

『二十五』

『巳三月廿五日』

「四拾壹番組区内浅草田原町三町目同所東仲町北裏続ニ、浅草寺境内畑屋敷と申場所有之、百姓町家之名目ニ而、凡坪数左之通

田原町三町目裏畑屋敷

凡千五百六拾坪余

東仲町裏同断

凡貳百三拾坪余

右之通ニ而、住居人凡八拾軒程有之、是迄両町元名主支配兼勤致居候得共、当御府御支配場内ニは無之、右場所異変其外とも浅草寺代官より元寺社奉行所へ申立来候趣、尤右畑地は開墾場ニは無之、旁畑屋敷名目ハ不相当ニ可有之哉、且右畑屋敷受負人有之、浅草寺え地代金差出候趣、此度前書田原町三町目東仲町共区内私支配被仰付候上は、右畑屋敷之儀、如何相心得可申哉

右之通二付、此段奉伺候、以上

巳三月

四拾壹番組中年寄

大久保 真 十 郎

附札

書面畑屋敷之儀は、外社寺門前町之振合を以、区内支配場と可心得事

〔府治類纂 地輿 第十七冊〕続く

（よこやま ゆりこ 本学教授）